

春秋彩

Shunjusai

vol.52

熊本県立大学広報誌

2020
Spring



CONTENTS

理事長あいさつ	2
特集 熊本県立大学の国際化	3
後援会だより	7
活躍する卒業生	8
地域連携	9
研究活動紹介	10
国際交流	11
大学の動き	12
生き生き元気種	14
おすすめの一冊・人事情報・古本募金のお知らせ	15
熊本県立大学アーカイブス	16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。



熊本県立大学理事長

白石 隆

Shiraishi Takashi

熊本県立大学の国際化

日本では大学は「研究と教育の場」であるといっ、研究大学を重視する傾向があります。しかし、実際には、研究大学はごく少数で、本学も含め、圧倒的多数の大学は教育大学です。18～19歳で高等学校を卒業して大学に入った若い人たちが、自分は将来、社会人として、どこで、どんなしごとをし、どんな人生を送りたいか、自分なりの考えをまとめ、準備をする、そのための場と時間を提供するのが教育大学の役割であり、本学の任務です。

本学は「地域に生き、世界に伸びる」を精神としています。「もやいすと育成」はこれを具体化する試みです。このプログラムでは、熊本の自然、文化、社会を理解し、自分で課題を見つけ、地域の人々と一緒に課題解決に取り組むことのできる人たちの育成をめざしています。「もやいすとグローバル」プログラムはその発展型で、そこで中心的役割を果たすのが国際教育交流セン

ターです。本プログラムで日本語を母語としない人たちがどう付き合うかを学び、日本の外に飛び出し、熊本の良さを再確認してまた熊本に戻ってくる、そういう人が一人でも多く出てくることを大いに期待しております。

本学はまた、熊本県とJICA(国際協力機構)の協力協定を踏まえ、青年海外協力隊で活躍した人たちが、自分の経験を振り返り、考えをまとめる場として、新しい大学院修士プログラムを設立しました。「もやいすとグローバル」で学んだ人たちの中から、海外青年協力隊に参加して途上国で活躍し、また、熊本に戻ってくる人が出ることも期待します。

大学の4年間はみなさんがそれぞれの人生でなにをしたいかを定める非常に重要な4年間です。ぜひ、いろんなことを試してみてください。そこから可能性が見えてきます。

熊本県立大学の国際化

本学では、これまで学内の各所属で取り組んできた国際化に関する業務を集約し、また、今後国際化をさらに推進するため、国際教育、国際交流及び語学教育支援等に関する業務をワンストップで実施する組織として、令和2年4月、国際教育交流センターを設置し、グローバル人材の育成に取り組めます。

半藤英明学長からのメッセージ



明治期にロンドンへ留学した夏目漱石は、異文化に触れ、その体験と理解を通じ、西洋的な自由主義や個人主義が行き過ぎると秩序が迷走し、人倫が荒廃すると预言しました。個人の価値観が「人格」に基づくことをも確信し、若者に対し、人格の陶冶を重視するよう訴えました。知の越境は、覚醒をもたらすのです。世界のありさまを見れば、グローバル化の負の遺産でしょうか、自国第一主義が横行しています。ダイバーシティの名のもとで基本的な価値観が液化化している現在、私たち一人ひとりに問われているのは、広い視野と確固たる見識、そして、それらを保証する秀れた人格です。

地方創生が叫ばれていますが、小さな認識からの大きな創造は考えにくい。世界を知れば、地域のことをもっと深く考えるようになる。国際的なセンスを学生たちの標準装備にしたい。熊本県立大学のモットーは「地域に生き、世界に伸びる」であり、本学が目指す国際化とは「熊本で世界と触れ合う環境づくり」と「地球市民にふさわしい教養づくり」の拠点となることです。

国際教育交流センター概要

- 1 開設時期 令和2年(2020年)4月1日
- 2 設置場所 グローカル棟2階
- 3 組織 センター長(教員)、事務長、事務職員、嘱託職員(2名)、国際教育交流コーディネーター、特任教員の計7名で構成

4 主な所管業務

- 国際教育の企画・調整
 - ・学部 もやいすとグローバル育成プログラム等の実施支援
 - ・大学院 高度グローバル人材育成のための国際協力・貢献活動を終えた者の受入れ支援及び国際教育・貢献活動を組み込んだ大学院教育の実施支援
- 国際交流の推進
 - ・海外協定校との交流
 - ・学生の留学及び受入れ留学生の支援 等
- 語学教育の支援
 - ・Global Loungeの運営
 - ・TOEIC® IP(団体試験)の実施 等

もやいすとグローバル育成プログラムがスタートします！

令和2年度からスタートする本学独自のグローバル人材育成プログラムです。1年次から4年次までの体系的な学びと海外留学等を提供し、「グローバル」な視点で物事を考え、「ローカル」の課題解決に取り組む人材であるもやいすとグローバルを育成します。

1 どんな能力を身に付けることができますか

①
コミュニケーション能力
(語学力・情報発信力)

②
主体性・積極性、
チャレンジ精神、
協調性・柔軟性、
責任感・使命感

③
自国文化・異文化に
対する理解



2 プログラムへの参加要件はありますか

2年次以降のもやいすとグローバル育成プログラム参加者専用の科目を履修するには基準の英語力(TOEIC®550点)が必要です。「TOEIC®で550点取れるかな?」と不安な方も大丈夫!1年次後期の授業「Moyaist Global Entry Training」でプログラムに参加するための準備をサポートします。

3 参加学生にはどんなメリットがありますか

- (1) プログラム参加学生のために用意された科目を履修することで、自国文化・異文化に対する理解を深め、英語運用能力の向上を目指すことができます。
- (2) プログラム参加学生のみ海外インターンシップや海外ボランティア等を行う「グローバル実践活動」の履修が認められ、経済支援を受けることができます(プログラム参加費のうち2分の1の額の助成金、上限10万円)。
- (3) もやいすとグローバル育成プログラムにおける履修状況等を一定の基準に沿って評価し、「もやいすとシニアGlobal」・「もやいすとスーパーGlobal」として認定し、もやいすとグローバル認定証を授与します。認定証は就職活動等で在学中の活動をアピールする際に役立てることができます。
- (4) 在学中に交換留学や海外インターンシップ・ボランティア等を行うための、語学力向上のための支援や留学相談等のサポートを受けることができます。
- (5) 全学部の学生を対象としたプログラムであるため、学部の垣根を超え、海外に興味のある仲間と授業等を通して出会い、切磋琢磨しながら自分の夢に向かっていくことができます。

4 プログラムで身に付けられる英語力は

「もやいすとシニア Global」として認定されるためにはTOEIC®650点、「もやいすとスーパー Global」として認定されるためにはTOEIC®730点が必要です。ただし、このプログラムでは英語力だけでなく、1に挙げた①コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③自国文化・異文化に対する理解を身に付けることが重要です。

5 どんな授業がありますか

以下の6科目を開講します。また共通科目や専門科目において、外国語能力の向上や国際理解・異文化理解を深める科目を「グローバル科目」として履修を推奨します。

■「コミュニケーション能力(語学力・情報発信力)」を身に付けることができる科目

授業科目名	配当年次	授業内容
Moyaist Global Training I	2年次 前期	ディベートやディスカッションを中心とした英語の授業 到達目標TOEIC®スコア:600点
Moyaist Global Training II	2年次 後期	ディベートやディスカッションを中心とした英語の授業 到達目標TOEIC®スコア:650点
Moyaist Global Training III	3年次 前期	アメリカや他の国の文化を学ぶためのビデオに基づき、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを中心とした授業 到達目標TOEIC®スコア:700点



■「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」を身に付けることができる科目

授業科目名	配当年次	授業内容
もやいとシニア(グローバル)育成	2年次 後期	【講義】 オリエンテーション、異文化理解、ビジネスパーソン講話、JICA等講話 【短期英語研修】 短期Japan Studiesプログラム、モンタナ州立大学ピリングス校での短期英語研修等
グローバル実践活動	3年次 通年	海外インターンシップや海外ボランティア等のグローバル活動



※上記科目では①コミュニケーション能力(語学力・情報発信力)と③自国文化・異文化に対する理解も身に付けることができます。

■「自国文化・異文化に対する理解」を身に付けることができる科目

授業科目名	配当年次	授業内容
Kumamoto Studies	2年次 前期	熊本・日本の文化・文学・環境、社会などについて英語で学ぶ

6 卒業後の進路は

海外展開している(しようとしている)熊本県内の企業や自治体等に就職し、グローバル人材として活躍するなど将来の熊本県の振興・発展に貢献してほしいと考えています。さらに、大学院に進学し、地域社会の国際化をリードしていくため、高度グローバル人材となるための国際協力・貢献活動を組み込んだ大学院教育を受けることができます。

LLCをGlobal Loungeとしてリニューアルします！

Global LoungeではLLCと同様、楽しみながら英語を学ぶことができます。これまでLLCで実施してきたCafé Eventや語学学習に役立つ様々な教材(iPad、DVD、書籍、雑誌、ボードゲーム等)も利用できます。令和2年4月からは国際教育交流コーディネーターが常駐し、学生のみなさんは英会話やディスカッションを行ったり、英語のチュータリングを受けたりすることができます。英語力の向上のためにぜひご利用ください！

英会話やディスカッション

国際教育交流コーディネーターと英会話やディスカッションができます。

昼休み(12:00~12:30)には「ランチタイム英会話」を毎日開催！ ランチを持ち寄って、気軽に英会話を楽しみましょう。

シチュエーション別英会話では空港や入国審査、レストラン等のシチュエーションを想定して必要な表現を学ぶことができます。



英語のチュータリング

国際教育交流コーディネーターとマンツーマンで1セッション30分の英語のチュータリングを予約制で実施します。

チュータリングの内容は、英会話の練習を始め、論文や学会発表の原稿、英文履歴書など留学や就職活動に必要なもの、日記やメール等の英作文のアドバイス、英語によるプレゼンテーションの練習、語学学習アドバイス等です。



■Global Loungeでの国際教育交流コーディネーターのスケジュール ※予定であり、変更の可能性もあります。

9:30-10:00	チュータリング①	
10:20-10:50	チュータリング②	
11:10-11:40	シチュエーション別英会話(月・水・金)	トピック別ディスカッション(火・木)
12:00-12:30	●ランチタイム英会話 (月・水・金:初級/火・木:中上級) OR ●Café Event	
12:30-13:30	昼休み	
13:40-14:10	チュータリング③	
14:30-15:00	トピック別ディスカッション(月・水・金)	シチュエーション別英会話(火・木)
15:20-15:50	チュータリング④	



大学院教育において、高度グローバル人材育成に取り組めます！

昨年10月、JICAと熊本県が締結した「熊本県と独立行政法人国際協力機構との連携協定」に県の発展に貢献する人材の育成が盛り込まれたことなどを踏まえ、本学ではグローバル化を積極的に推進し、学部教育だけでなく、大学院教育においても、海外体験(国際協力・貢献活動)と大学院の専門教育を実施し、熊本のグローバル化に貢献できる人材の育成に取り組むこととしています。



具体的には、令和元年度に概ね2年間の国際協力・貢献活動を終えた方を受け入れるための社会人特別選抜(国際協力枠)を創設しました。また、令和3年度からは国際協力・貢献活動を組み込んだ大学院教育をスタートさせる予定です。

大学卒業後は、熊本県内の企業、行政機関等に就職し、熊本のグローバル化をリードする人材として活躍し、地域の振興・発展に貢献してほしいと考えています。

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

後援会だより

後援会では、学生の就職対策事業の一環として、就職活動を目前とする3年生を対象とした「就職活動実践講座」を実施しています。外部講師を招き、10月から2月までの5カ月間、就職活動に必要なマナーの指導や、エントリーシートの書き方指導、面接やグループディスカッションの練習など、就職活動に必要な基礎的な内容を実践形式で行っています。講座に参加している学生は毎回真剣な表情で各回のテーマに取り組んでいます。

この他にも、各種の資格取得や公務員対策講座への助成など、学生の就職活動に必要な様々な支援を行っています。



《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実戦、ITパスポート試験対策、簿記検定試験対策、行政書士試験対策等)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、PROGテスト(社会人基礎力の測定)・TOEIC®IP学内試験への実施支援、福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック配付 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成 他
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(学食メニュー充実) 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、留学生危機管理サービス加入助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしています。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。



天草インバウンド推進事業の一環として台南トラベルフェアに出展した際、台湾の現地旅行エージェントの担当者と一緒に。真ん中が森林さん。

多様な人材 多様な価値観に 触れながら

株式会社 談
インバウンド事業部

森林 久枝さん

文学部日本語日本文学科 2001年(平成13年)卒業

今の仕事内容

多様な人材とともに多様な事業に取り組む

熊本本社のインバウンド事業の他、上海現地法人である上海興談商務諮詢有限公司担当責任者、福岡支社担当責任者と、複数の事業を担当しています。2017年に熊本本社に異動になるまでの10年間は上海現地法人に駐在し、現地のスタッフとともに人材育成やマーケティング翻訳の仕事を遂行していました。現在は熊本・上海・福岡と三地点を行ったり来たりしながら、それぞれの場所でのそれぞれの仕事の面白さを感じています。

インバウンド事業や上海事業は当社の新規事業という位置付けで、既存事業の枠にとらわれず、上海駐在時代に培ったパワー

と柔軟性を活かしながら、多様な人材とともにより良い仕事をしたいと思っています。

現在日本社会全体の流れがそうであるように、当社も外国人材の活用、子育て中の社員への配慮、女性活躍推進等積極的に進めています。多様な価値観を持った多様な人材がそれぞれの個性を存分に発揮できる組織を目指しています。とはいうものの、ダイバーシティ(多様性)の実現は容易いものではなく、毎日反省することが多いです。

後進に伝えたいこと

自分が思い描いた方向に人生は進む！

思い返せば、県大時代に経験したこと、学んだこと全てが今に繋がっていると感じます。幼いころから海外志向があったとは言え、海外特に東アジアとの接点が強くなったのは県大時代であることは間違いありません。3月に退官される馬場先生の研究室では、海外とか外国人とかまるで身近なもので、日常生活に普通に打ち込んでいたと思います。その頃から何となく私の頭

の中には「海外と関わる仕事がしたい」という思いがあったと思います。つまり自分が思い描いた方向にしか人生は進んでいかないということだと思います。在学生の皆さんの県大での「今」は必ず「未来」に繋がっており、皆さんが望むとおりに波が動いていきます。今はまだ学生の皆さんとも、いつかグローバルな舞台の上と一緒に仕事ができたら大変うれしいです。

地域連携

上天草市と包括協定を締結しました！

12月20日に、地方創生に向けた人材育成や地域資源の活用等で相互に協力することを目的に、上天草市との包括協定を締結しました。今回の締結により、包括協定先は21自治体、2企業・試験研究機関となりました。



協定締結を契機に、上天草市維和島での“アルベルゴ・ディフーズ”の推進や、シティプロモーションの共同研究、学生の視点による観光商品の開発、SNS等を活用した相互連携の情報発信、市役所や企業でのインターンシップなど、相互が連携して取り組んでいきます。

特別講座「防災ゲーム『クロスロード』体験」を開催しました



本学の「防災・減災ビジョン」の「教育・啓発アクション」のプログラムとして、特別講座「防災ゲーム『クロスロード』体験」を開催しました。

小学校6年生から85歳の高齢者まで幅広い年代と、普段は一堂に会することが少ない色んな職種の方々に参加いただきました。

楽しい雰囲気の中、様々な課題への対応策について意見を交換することで、自

分とは異なる多様な価値観を理解する機会となりました。



社会人向け学びの講座「CPDプログラム」を実施しました

広く社会人・職業人を対象に「学び直し」、「学び直し」の機会を提供する講座「CPDプログラム」を実施しました。

今年度は、例年開講している「認定看護管理者教育課程 サードレベル」、「自治体職員・まちづくり関係者向け講座」に加え、「歩き方講座“実践インターバル速歩”」と自治体職員・まちづくり関係者向け講座「空き家問題とは何か？」を新たに実施しました。また、平成30年度の講座をバージョンアップした「1 dayスキルアップ実践型セミナー仕掛け力&企画力で仕事イノベーション！」を開講しました。



ビックデータ・AI時代における中国の個人情報保護法制の研究 ～日中行政法の比較研究～

私の研究テーマは日中行政法の比較研究で、法学分野ではかなり珍しいものです。法学部→法学研究科(修士)→国際協力研究科(博士)を経て、比較法学(中国法)と公法学(行政法)を専門領域としています。

一党独裁国家の行政法？

行政法学者の間でも中国法学者の間でも、私の研究テーマを言うと吃驚されます。行政法研究は法治国家を大前提とするからです。つまり、行政権力を法律によって統制・コントロールすることが行政法学の基本思考ですが、中国は周知のとおり、共産党一党独裁体制にあります。すると、「中国に行政法はあるの？」という疑問をもつ法学者が多いわけです。

行政法学者は、①行政法理論(行政裁量の司法審査の方法等)、②個別参照領域(租税、環境、社会保障、都市計画等)、③海外行政法(ドイツ法、アメリカ法等)の3つを基軸に研究しています。私の場合、①情報公開・個人情報保護、②行政情報法制となります。2004年に本学に赴任して以来、熊本での教育や社会的活動はもっぱら行政法に関連するもので、熊本を離れると中国法や中国情勢を研究するという状態でした。

テクノロジー統治の最先端国と行政法

私が中国法研究を始めた頃と比べると、中国の社会は大きく変わりました。経済発展、特に情報IT産業の発展はめざましいです。BAT(バaidu、アリババ、テンセント)のほか、華為(ファーウェイ)は日本でも有名です。他方、変わらないのは一党独裁体制です。習近平体制のもと、強権政治はむしろ強化されています。なかでも、テクノロジーの進化を活用した統治は凄まじいです。例えば、無数の監視カメラ、顔認証システム、社会信

研究活動紹介

総合管理学部 総合管理学科
教授 上拂耕生



プロフィール

神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了。博士(法学)。平成16年より本学勤務。熊本広域行政不服審査会会長など



<上>逃亡犯条例などに反対する香港大学構内の掲示
<下>街中になる法治のスローガン



拙著「中国行政訴訟の研究」(明石書店2003年)と、執筆者の1人として加わった日中研究者による共著「中日比較法講義」(中国語)

さまざまな国の学生との交流が、
県立大生のグローバルな視点を育みます

国際交流

総合管理学部(高埜ゼミ)研修旅行(タイ王国)

総合管理学部国際関係論研究室(高埜ゼミ)の2~4年の学生13名が、12月15日から4泊6日でタイ王国において研修旅行を実施しました。王宮や児童養護施設などの他、バンコク首都圏内にある国立シーナカリンウィロート大学を訪れ、教育学部(生涯教育専門)の学生たちに、熊本のこと、県大のこと、熊本地震後の復興についてなど、英語によるプレゼンテーションを披露し、親睦を深めました。



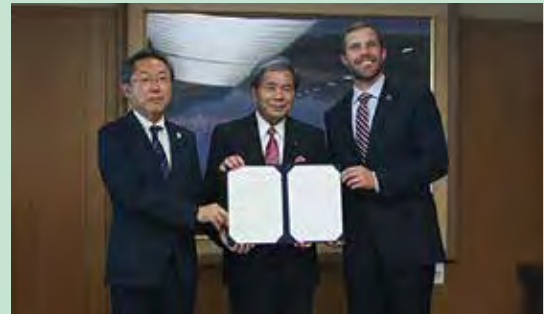
米国・モンタナ大学と「学術交流に関する覚書(MOU)」を締結

10月21日、本学は米国モンタナ大学と「学術交流に関する覚書(MOU)」を締結しました。

熊本県庁で執り行われた調印式にあたっては、蒲島 郁夫知事の立ち会いのもと、両大学の総長・学長が、学生・教職員の相互交流や共同研究などを進めていく旨が記された覚書へサインしました。

蒲島知事からは、「この協定による学生や研究者の相互交流が、両大学を活性化し、更なる発展に繋がっていくことを祈念する」との祝辞が述べられました。

今後、両大学は、語学教育の分野を中心に相互交流を展開していく予定です。



東華大学との合同フィールド調査

環境共生学部居住環境学専攻の辻原研究室では、9月18日から24日までの日程で台湾を訪問し、台湾東部の花蓮県に位置する国立東華大学台湾文化学系の郭俊麟研究室の学生達との合同フィールド調査に参加しました。日台混成の2班に分かれ、花蓮県と宜蘭県に残る日本時代からの産業遺産を調査した成果をもとに、観光マップを作成し、地元の方々を交えた発表会で発表しました。多様な文化が共生する台湾の姿も体験でき、短い期間でも大きく成長した1週間でした。



「東南アジア青年の船」の訪問団が来学

10月28日、内閣府の国際交流事業「東南アジア青年の船」に参加するASEAN諸国11カ国の社会人・学生ら30人が本学を訪れ、総合管理学部・高埜ゼミの学生らと交流を行いました。

参加者は各国、地域の文化や歴史などを紹介し、相互理解を深めたほか、ASEAN諸国と日本の交流を促進するためにはどのような取り組みが必要か、グループに分かれて意見交換を行いました。

本学の学生にとっては、英語を使って自分の考えを表現する良い機会となったほか、異なる文化や価値観に触れることのできる貴重な経験となりました。



大学の動き

環境共生学研究科ランディ・ノフィルサさんが 「第18回環太平洋環境と健康コンソーシアム学会」において最優秀学生賞を受賞！

水銀研究留学生として水銀汚染がヒトや生態系へ及ぼす影響について研究しているランディ・ノフィルサさん(環境共生学研究科博士後期課程3年・インドネシア出身)が、9月に京都府で開催された国際学会「第18回環太平洋環境と健康コンソーシアム学会」において、「インドネシアの小規模金採掘地域における水銀のイネへの長期曝露と住民への影響」というテーマで口頭発表を行い、最優秀学生賞を受賞しました。

ランディさんは「この研究が、環境問題—とりわけ発展途上国における水銀曝露の問題解決に貢献できたら嬉しい」と述べ、今後も、国際社会に向けて更なる研究を進めていきたい、との決意を表明しました。



津曲研究室3年生が 第36回NHK全国大学放送コンテスト文部科学大臣賞を受賞！

総合管理学部で映像制作等に取組んでいる津曲研究室の3年生5人(橘里奈さん、川上紗弥さん、園田風香さん、松原大輝さん、三角彩乃さん)が第36回NHK全国大学放送コンテスト映像CM部門で1位となるとともに、全7部門の最優秀として文部科学大臣賞も受賞しました。国内大学から607作品の応募があった中での全国頂点という快挙です。研究室での挑戦は3度目。5人は6月から企画作りを開始、夏休みに入って制作に取り組みました。優れた創造力が要求されるコンテストです。研究室で鍛えた創造力を5人が見事発揮した成果でした。



動画データはこちら▲



熊本県立大学国際シンポジウム2019 「アジアで進むイノベーション」を開催しました

11月1日、熊本ホテルキャッスルにて上記シンポジウムを開催しました。当日は熊本市内の高校からも生徒が集まり、400名ほどの参加がありました。基調講演では、医学博士の黒川清先生と、笹川平和財団の角南篤先生から講演をいただきました。引き続きパネルディスカッションを行い、角南先生に加えて、国際経済研究所の大辻義弘氏、インドネシアから来日したレイラ・ジャワス氏が、アジアでのイノベーションの現状について議論を行いました。



環境共生フォーラム2019を 開催しました

11月24日、本学大ホールにおいて、環境共生フォーラム2019(テーマ:持続可能な社会形成のための環境共生学部の取り組み)を開催しました。第7回食育・健康フェスティバルも同時開催(11:00~17:00)しました。基調講演では、ジェトロ・アジア経済研究所研究推進部上席主任調査研究員の佐藤寛氏が「SDGs時代における環境／社会／経済のつながり～大学教育に期待されるもの」と題して講演されました。また、3専攻長による講演(石橋教授、辻原教授、松崎教授)を実施しました。在学生、卒業生、教育関係者など約220名の参加者との活発な質疑応答もあり、SDGsに関する日本の取り組みや、学部の活動状況などを知る充実した機会となりました。



毎月19日前後は「食育の日」!

本学学生が、地域の食材を使ったオリジナルメニューを考案し学食で提供する「食育の日」。今年度は「たべらボ」メンバーと様々な団体が協力して、魅力的なメニューが開発されました。10月18日は味の素株式会社の「勝ち飯®」をテーマにした「怠けた自分に勝つ! 県大スリーステップランチ」、11月15日は熊本農業高校生活科と連携した「令和スターイン☆ボリュームミーランチ」、12月19日は学内KUMAJECTツアーと連携した「お母さんの味!?心まで温まる【人吉球磨の宝ランチ】」、1月21日は山都町の特産品を使った「山都町ジビエホットドッグランチ」が提供されました。



熊本農業高校の特産品たっぷり! 11月の食育の日ランチ

文学部パク・イチョルさんが日本語能力試験N1 において満点合格しました!

文学部日本語日本文学科1年のパク・イチョルさん(韓国出身)が、7月に実施された日本語能力試験(JLPT)N1において、満点合格しました。N1は日本語能力試験の最上位の級で「幅広い場面で使われる日本語を理解することができる」レベルとされており、合格率は平均約30%、満点で合格する受験者はわずか1%未満です。

パクさんは今後の学生生活において更に日本語力の研鑽に努め、将来は日本と韓国との懸け橋となるような存在になりたいと話しました。



11月24日食育・健康フェスティバルを開催!

7回目となる今回は、「ENJOY DISCOVERY」(発見を楽しもう)をテーマに、学内の食と健康に関する研究の展示(ラボカフェ)や、クイズラリー、食生活・健康状態チェック、「食育の日」のメニュー提供の他、様々な団体にご協力頂き、地域の食の試食・マルシェを行いました。朝から雷雨だったにもかかわらず、たくさんの方にご来場いただき、「色々な地域の名産や学生の取り組みを知ることができてよかった」「学生さんも親切でとても楽しい体験ができました」「毎年妻と2人で参加しており、楽しみにしています」などの感想をいただきました。



活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



九州大学秋季バレーボール男子4部リーグでの優勝盾等とともに

男子バレーボール部

男子バレーボール部 部長 小橋佑芽(総合管理学部2年)

廃部危機から 九州大学バレーボール3部リーグ昇格へ！

私たち男子バレーボール部は、現在、3年生2名、2年生6名、1年生4名の計12名の部員とマネージャー4名で活動しています。毎週月曜日と木曜日と土曜日の週3回、アリーナ2階で練習に励んでいます。

数年前までは、部員数も少なく、廃部寸前の時期もあったようですが、現在の3年生を中心に地道に勧誘活動と練習を続けた結果、部員も増え、各種大会で好成績を残せるようになってきました。

九州内の41大学で構成される九州リーグでは、2017年までは、万年、一番下の6部リーグでしたが、徐々に上位リーグに上がっていき、2019年10月に開催された九州大学秋季バレーボール男子4部リーグで全勝優勝し、3部リーグ最下位との入れ替え戦にも勝利しました。その結果、2020年春季から、3部リーグに昇格することが決定しました。同大会ではスパイク賞、ブロック

賞、最優秀賞の個人賞も当サークル部員が獲得しました。また、県内大学・社会人等で構成される県リーグでも、2019年秋から1部リーグに昇格しています。さらには、2019年度国民体育大会熊本県代表にも、当サークルから3名が選抜されました。

昨年3月には顧問の馬場先生のご指導もあり、韓国へ遠征し、ソウルの国民大學校のバレーボールサークルと親善試合を行い、本学の国際交流にも貢献させていただきました。

これからも、県リーグ優勝、九州リーグの2部、さらには1部リーグ昇格を目指して、練習に励んでいきたいと思っています。

部員の中には、大学に入って初めてバレーボールを始めた者もいます。練習の雰囲気も明るく、先輩・後輩の分け隔てもありません。経験者・初心者問わずぜひ練習の見学に来ていただき、少しでも興味があつたら一緒にバレーボールを楽しみましょう。



この小説の“outlander(外国人・異国人)”とは何か



文学部 英語英米文学科 講師

武上 富美

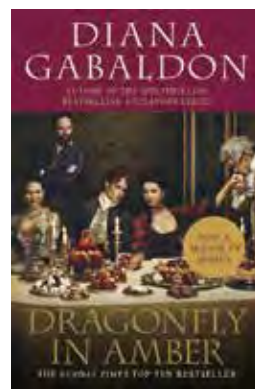
る愛と欲望、強さと弱さ、危険や情熱や冒険そして暴力、社会から受ける抑制などの臨場感を感じられたらあなたの英語も上級クラスでしょう。

実はこのお話はすでに英米合作でテレビドラマ化されてい

今回ご紹介する本は、英国女性作家ダイアナ・ガバルドンによって書かれたOUTLANDERです。彼女の作品は歴史的背景の描写や印象的なキャラクター設定に特徴があるといわれていますが、OUTLANDERではさらに時空的要素が組み込まれています。壮大なスコットランドを舞台に描かれる

ますので、ネット配信で見たことがある人もいるかもしれませんが。ドラマでは英国歴史を背景に見目麗しい俳優たちが話す英語も米英語とは異なり、また違った楽しみ方もできるのではないのでしょうか。

ちなみにOUTLANDERは近く本学図書館で借りることが可能になりますので、興味のある方はぜひ手に取ってみてください。この写真はBook2ですが、Book1からぜひ楽しんでください。“outlander”とは「外国人・異国人」などの意味がありますが、この小説のoutlanderとは何を指すのか読んでのお楽しみですね！



人事情報

●採用 (令和2年4月1日付)

【文学部】

日本語日本文学科	准教授	秋葉 多佳子
英語英米文学科	准教授	田中 和也

【環境共生学部】

環境共生学科 食健康環境学専攻	准教授	阿南 弥寿美
-----------------	-----	--------

【総合管理学部】

総合管理学科 情報部門	講師	岩見 麻子
-------------	----	-------

●昇任 (令和2年4月1日付)

環境共生学部	教授	田中 昭雄
環境共生学部	教授	一宮 睦雄
総合管理学部	教授	中尾 富士子
環境共生学部	准教授	小森田 智大
環境共生学部	准教授	中嶋 名菜

●退職 (令和2年3月31日付)

文学部	教授	砂野 幸稔
文学部	教授	馬場 良二
環境共生学部	教授	有菌 幸司
総合管理学部	教授	森 美智代
総合管理学部	教授	吉村 信明
環境共生学部	准教授	吉村 英一

古本募金にご協力ください

不用の書籍、CD、DVD をご寄附いただき、熊本県立大学未来基金において、本学の教育研究に役立てる取組みです。ぜひご協力ください。

〈インターネットでの申込みの場合〉

梱包

書籍、CD、DVDを段ボール箱に詰めてください。(インターネットでの申込みの場合、申込書の封入は不要です。)

申込

「熊本県立大学 古本募金」ホームページのお申込みフォームに必要事項を入力してください。

発送

指定のお時間に 宅配業者が伺います。5冊(点)以上は送料無料です。

※提携会社バリューブックスにて買い取られ、その売却代金が「熊本県立大学未来基金」へ寄附されます。
※電話での申込みも可。バリューブックス 0120-826-292へ。「熊本県立大学 古本募金」とお伝えください。

詳細はホームページへ

<http://www.furuhon-bokin.jp/pu-kumamoto/>

熊本県立大学古本募金

検索



白川県肥後国熊本全図

坂田信存発兌、松岡来茂改証、折疊仕立て、木版多色摺

本図は、近世的な構図に倣って熊本城(鎮台兵舎と表記)を中心に熊本の「町」を描いた絵図で、上梓年次は明記されていないが、白川県を称した時期(明治5年[1872]6月~同9年2月)のうち、後述の検討から明治7年かそれ以降に作製されたものと見てよい。

全体(左図)の中から中央部(朱線は筆者による)を拡大したものが右図で、上部に「鎮台兵舎」、左上方に「藤崎宮」(跡地は藤崎台県営野球場)、下部に「洋学校」(跡地は県立第一高校)などの名が見える。

なお、文字の向きが区々なのは、構図と同様に表

記もまた近世絵図の方法を踏襲したため、床に敷き広げられた大型の絵図を四方から眺める読者の姿を想定していることによる。

さて、吉田妃穂子氏の御教示を受けて景観年代の手掛かりを絵図に探ると、錦山神社が新町に位置していることに気付くが、『熊本県神社誌』を繙くと同地への移転は明治7年であった。

併せて、同年6月14日~8月上旬に行われた町村合併で消失した村名が掲載されていることを勘案すると、本絵図は、明治7年頃の景観が映されたものと見ることができる。

解説:文学部日本語日本文学科 准教授 大島 明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
 いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
 〒 862-8502 (住所記載不要)
 熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
 FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒 862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
 TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>